

# 兵庫県立 考古博物館 NEWS

Vol.32



Hyogo Prefectural  
Museum of  
Archaeology



2023 Autumn-Winter

## 2023年秋冬号

- 秋季特別展「駅家発掘!—播磨から見た古代日本の交通史—」
- 冬季企画展「福田片岡遺跡—中世の道と物流—」
- 「台湾に行ってきました!—我們去了台灣!—」
- 古代鏡展示館(加西分館) 秋季企画展  
「方格規矩鏡—鏡に広がる天門地方の宇宙—」



## 秋季特別展 駅家発掘!—播磨から見た古代日本の交通史—

期間：令和5年9月30日(土)~12月3日(日) 場所：特別展示室

日本が本格的な国家建設に取りかかったおよそ1,300年前、奈良の都と全国各地は、「七道」(東海道・東山道・北陸道・山陰道・山陽道・南海道・西海道)で結ばれていました。高速道路のネットワークのようなこの道には、中央と地方を行き交う使者が馬を乗り継いだり休んだりする「駅家」が、一定の距離ごとに設けられました。まるで現代のサービスエリアですが、当時は公的な使者しか使えない役人専用の施設でした。なかでも都から海外への玄関口である九州の大宰府につながる「山陽道」は最重要路線で、いわば古代の国道1号線です。外国の賓客を迎えることを想定して、山陽道の駅家の建物だけは特別に、白壁に朱塗りの柱、瓦葺きの屋根で整備されました。

兵庫県内にはこうした駅家の遺跡が数多く知られているため、当館は平成19年の開館以来、播磨における駅家の遺跡を継続的に調査してきました。これにより文献で名前のみ知られていた駅家の遺構が次々と見つかっています。この展示会は、県内および山陽道各地の駅家遺跡の調査事例をもとに、古代交通の実態に迫ろうというものです。



播磨国府系鬼瓦／左：高田駅家(上郡町)  
右：賀古駅家(加古川市 個人蔵)

それでは、出品資料の中からいくつかご紹介しましょう。

小犬丸遺跡(たつの市)は、発掘調査により全国で初めて「駅家」であることが分かった遺跡です。その決め手となったのが「驛」「布勢」と記された墨書土器や木簡です。これにより同遺跡は「布勢駅家」であることが確定し、その後の調査で、瓦葺建物の配置も明らかとなりました。



墨書土器／小犬丸遺跡(たつの市)  
左：「驛」 右：「布勢井邊家」

当館が発掘調査した長坂寺遺跡(明石市)では、方形にめぐる瓦葺きの築地痕跡が見つかり、史料に名前が残らないため、古い地名をもとに「邑美駅家」と仮称している幻の駅家だと判明しました。その下層からは掘立柱建物も検出され、瓦葺以前の初期駅家の存在も濃厚です。



築地遺構と掘立柱建物／長坂寺遺跡(明石市)

古代の山陽道は歴史上有名な人物も往来していたはずですが、個人とつながりのある出土品はそう多くありません。今回展示する「下道圀勝圀依母夫人骨蔵器」(重要文化財)は、数少ない貴重な遺物の1つです。青銅製品で、蓋に刻まれた銘文から下道圀勝・圀依兄弟が和銅元年(708)に母の遺骨を納めるために制作したものと判ります。圀勝は吉備真備の父親ですので、これは真備の祖母の骨壺ということになります。この製品は元禄12年(1699)に、現在の岡山県矢掛町から出土したと伝わります。教科書にも出てくる偉人にまつわる作品を目にするまたとない機会です。どうぞ展覧会に足をお運びください。

(学芸課 中川 渉)



下道圀勝圀依母夫人骨蔵器(重要文化財)／圀勝寺蔵

## 担当学芸員の紹介



学芸課 中川 渉

今回の展覧会は、16年間におよぶ「古代官道に関する調査研究」の成果をご覧ください。私はその事業の立ち上げに関わり、担当した長坂寺遺跡の発掘調査では、実際に駅家の遺構が出てきたという驚きに心を躍らせたものでした。研究を進めると、平城京や九州の駅家との関係・相関も見えてきて、展示ではそうしたことも盛り込んでみました。

平城京で出土した播磨国府系軒瓦  
／奈良市教育委員会蔵

## 冬季企画展

## 福田片岡遺跡 ―中世の道と物流―

期間：令和6年1月13日(土)～3月10日(日) 場所：特別展示室

たつの市に所在する福田片岡遺跡は、バイパス建設に伴う発掘調査の結果、中世の居館や道路が見つかりました。遺跡の位置する一帯は、古代から中世にかけて存在した法隆寺領播磨国鵜荘に当たります。鵜荘については、荘園絵図が伝来しており、福田片岡遺跡の場所には、元寇に備えて整備された九州と京都を結ぶ筑紫大道(中世山陽道)が記されています。このことから、見つかった道路は、この筑紫大道と考えられ、絵図の記載が考古学からも実証される結果となりました。

さらに、遺跡は揖保川の支流、林田川と筑紫大道が交わる「結節点」に位置するため、中国産をはじめ、他地域の多彩な陶磁器類が出土しています。

本展では、福田片岡遺跡の調査結果から、中世の人や物の交流の一端を紹介します。

(学芸課長 松岡千寿)



福田片岡遺跡出土の青磁皿



# 台湾に行ってきました！ —我們去了台灣！—

ウォメンチーラタイワン

期間：令和5年4月14日(金)～16日(日)

場所：台湾新北市十三行博物館

## 1 国際シンポに参加して

4月14日(金)に台湾の十三行博物館で開催された「2023新北市国際考古論壇」に招待されて、学術交流を行いました。十三行博物館とは平成24年から交流があり、学術文化交流協定を結んでいます。ここ数年はコロナ禍のため、オンラインなどを活用しての交流を続けていましたが、今年は現地で参加することができました。

今回のテーマは「古代東亜海路交流探求」です。香港、韓国、オーストラリア、そして日本からの研究者が台湾に集まり、古代東アジアにおける海を越えた交流やつながりについて発表を行い、見識を深めました。

当館の展示でも、海のむこうの人々との交流がトピックされており、復元された古代船は当館で最もインパクトのある展示となっています。また、出土した船のパーツとともに展示されている袴狭遺跡出土の線刻画木製品には、海上を往く古代船の船団が描かれており、古代の航海を考えるための好資料です。こうした出土品や絵画・造形表現などの考古資料を中心に、今回、「交流を支えた古代船」と題して、日本列島の船と航海について紹介しました。

先人たちが荒波をこえて繋いだ古の交流に思いを馳せながら、現代を生きる私たちも確かな絆を育んできました。

(学芸課 藤原怜史)

## 2 古代体験イベントに参加して

4月15(土)、16日(日)の2日間は、古代体験イベント「2023新北考古生活節 船樂嘉年華」が実施されました。

当館と播磨町が共催で実施する「大中遺跡まつり」のように、台湾内外の博物館や大学、遺跡公園や各種団体等41団体が集まり、様々な特色のある古代体験プログラムを提供しました。日本からは、当館の他に沖縄県立博物館・美術館「おきみゅー」と宮崎県立西都原考古博物館が参加しています。

初日は、あいにくの雨模様でしたが、会場には次々と来場者が集まり、当館のブースはもとより、中央ステージでの演目に魅入られていました。16日は前日とは打って変わって晴天の下での開催となりました。前日をはるかに超える多くの来場者にお越し頂きました。

当館のブースでは、「いつでもできる古代体験」として当館が毎日実施している「組紐づくり」を行いました。悪戦苦闘する4歳くらいのお子さんを見かねたお母さんが、代わりに試みたところ、うまくいかず、子どもさんから「ママだって出来てないじゃん!」とツッコまれる場面もありましたが、参加者のみなさんは一様に、組紐が完成すると、満足げな顔をされていました。万国共通の反応に、提供した私たちも安心した一瞬でした。

(学習支援課 永恵裕和)



## 古代鏡展示館 秋季企画展

## 方格規矩鏡

— 鏡に広がる  の宇宙 —

期間：令和5年9月16日(土)～令和6年3月10日(日) 休館日：水曜日、12月21日(木)～1月2日(火)

※10月12日(木)～11月21日(火)は無休。令和6年1月3日(水)は開館。

方格規矩紋は、四角形(方格)の外周にT・L・V字形の規矩紋が4個ずつ規則的に配置された紋様です。規矩紋は、方格部(下図黄色)4辺の各中央からT字形(緑)が外向きに立ち、その外側にL字形(青)が対置し、V字形(赤)が2つのL字形の間に方格部と角同士を対向させて置かれます。この抽象的で幾何学的な紋様は、戦国時代後期(紀元前3世紀頃)に出現し、鏡と異なる器物に確認できます。

方格規矩鏡は、円形鏡の背面に、鈕を中心据えて方格規矩紋が施されたものです。前漢時代中期(紀元前2世紀頃)に方格規矩蟠螭紋鏡、方格規矩草葉紋鏡等が初めて登場します。前漢時代末期(紀元前1世紀後葉)には、方格規矩四神鏡が出現し、新(王莽)の時期を経て漢時代の代表的な鏡のひとつとなります。

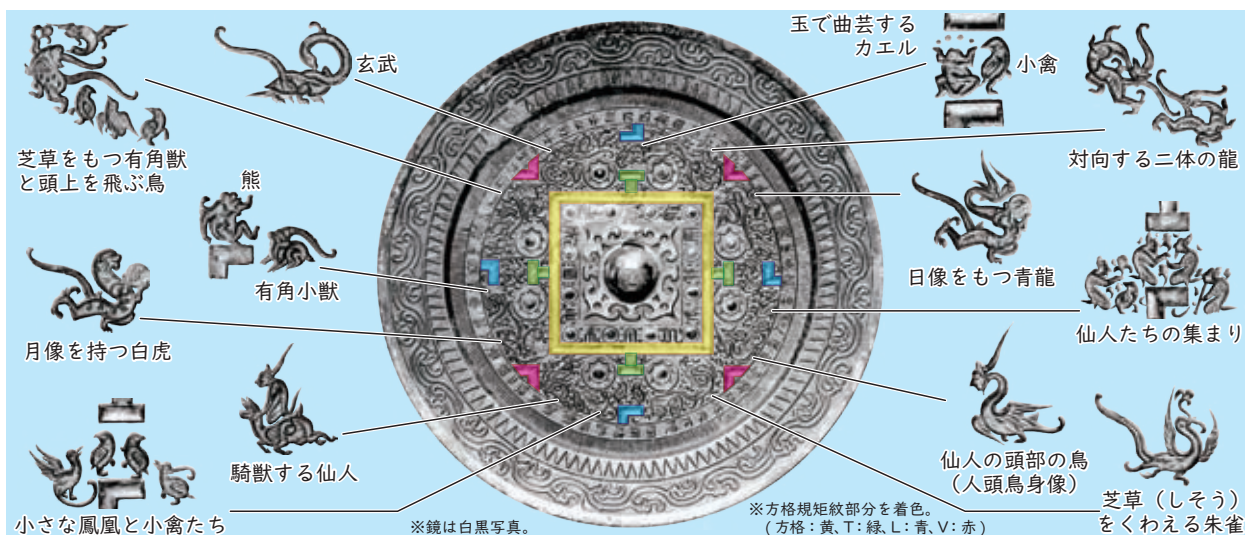
それでは、方格規矩紋にはどのような意味があり、なぜ鏡の紋様に採用されたのでしょうか？

古代中国では、人間界を取り巻く宇宙は、天は円形に、大地は方形に象られた「天円地方」の構造をもつとされました。方格規矩鏡は、鏡の円形や鏡背文様の円圏と方格規矩紋の方形を組み合わせ、天と地を表し、その間に規則的に置かれたT・L・V字形の規矩紋が天と地を繋ぐという宇宙の図式が示されたと考えられています。

方格規矩四神鏡では、その宇宙に陰陽五行思想や神仙思想などを背景とした四神や瑞獣、神仙などの図像を飾ります。銘文には、方格規矩紋や瑞獣たちとともに鏡がもたらす効能を記すものもあり、天地や世界の調和と順行、辟邪(魔除け)、所有者の長生や一族繁栄などの願いがうかがえます。

本展では、当館が所蔵する方格規矩鏡を一堂に展示し、方格規矩紋を中心として方格規矩鏡の様態や関連文化について紹介します。

(古代鏡展示館 垣内拓郎)



方格規矩四神鏡を飾る方格規矩紋と様々な図像



触れる・体感する、考古学のワンダーランド。  
兵庫県立考古博物館  
Hyogo Prefectural Museum of Archaeology

■休館日：月曜日(祝休日の場合は翌平日)

〒675-0142

兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1

TEL 079-437-5589

FAX 079-437-5599



考古博物館 HP



兵庫県立考古博物館 加西分館  
古代鏡展示館  
Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors

■休館日：水曜日(祝休日の場合は翌平日)

〒679-0106

兵庫県加西市豊倉町飯森1282-1

兵庫県立フラワーセンター内

TEL 0790-47-2212

FAX 0790-47-2213



加西分館 HP

兵庫県立考古博物館NEWS  
vol.32 2023 Autumn-Winter

発行年月日 令和5年8月31日

編集・発行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1

TEL 079-437-5589

FAX 079-437-5599

<https://www.hyogo-koukohaku.jp/>